

目黒寄生虫館月報

昭和34年6月10日発行・毎月1回10日発行

第4号

昭和34年6月

内 容

寄生虫の面白さ(福井玉夫).....	1
吉田貞雄博士より激励さる.....	1
最近寄贈をうけた標本.....	1
高雄医学院謝教授来館.....	1
観音崎水研四竈所長来館.....	1
阪大竹本博士来館.....	1
月例展示「私は貝になりたくない」内容.....	2
目黒寄生虫館建設記録(2).....	3
生物学同好会.....	3

寄生虫の面白さ

福井玉夫

何事によらず研究して見ると面白いものだが、私は寄生虫に興味がある。寄生とは何ぞやという事になると定義はむずかしいが、とにかく他の動物や植物の体にとりついて生活しているものであるから、とりつくまでどうやるかとか、とりついてからどうして生活す

るかとか、宿主が死んだらどうなるかとか、何故にある特定の宿主にしかつかないのかとか、色々な興味深い問題がある。形態や色彩を見ているだけでも興味津津たるものがある。時々寄生性の橈脚類を見ていると思わず吹き出しそうな格好をしているのがある。いやにしかつめらしい顔をしているのがあるかと思うと、アラビア人がアラの神においのりを捧げているような形のものがある。魚の鰓について全く同じ色があるかと思うと、ヨメガカサの鰓について美しい桃色の目立つ奴もいる。何故にこんな形や色彩を有するのかわからないが面白いことである。(理博)

吉田貞雄博士より激励さる

5月15日本邦寄生虫学の元老として我々の尊敬の的である吉田貞雄博士は「Dr. Eloise Blaine Cram を偲ぶ」と題するご高著とともに一書を送られ、我々を激励された。

高雄医学院謝教授来館

5月9日台湾の高雄医学院寄生虫学教授謝猷臣博士は公衆衛生院大島博士、西博士とともに来館された。本館から顎口虫などの標本を分譲したが、将来も標本交換について協力することを約された。

観音崎水産四竜所長来館

5月13日観音崎水産生物研究所四竜所長が来館され水産生物の寄生虫について有益なお話があった。

阪大竹本博士来館

5月20日阪大薬学部竹本常松博士が来館され、海藻の駆虫作用についていろいろと教授された。

最近寄贈をうけた標本

4月18日～5月18日の1ヶ月間に、次のような方々から標本の寄贈をうけた。ここに厚くお礼申し上げます。

予研佐藤温重氏 ムシヤドリカワザンショウガイ
横浜国大酒井恒博士 ハマガニ、アシハラガニ
千葉大横川宗雄博士 {ムシヤドリカワザンショウガイ
Pomatiopsis lapidaria
ケリコット肺吸虫、他2点

千葉県庁阪本勝一氏 }
千葉県内湾水試内田一三氏 } ヘナタリ、フトヘナタリ
水産庁柴原多聞氏 }

大山桂博士 キンイロセトモノガイ2点

林 義 秀 氏 {ヌノメカワニナ
タイワンカワニナ
イボアヤカワニナ

早岐鉄道病院院長玉井静顕氏 ヒシ及びその種子
小倉晁雄氏 ドクガ その他 13点

東大末広恭雄博士 *Anguillicola globiceps*

桜井欽一博士 ヒラマキミズマイマイ

目黒ユネスコ協会会員参観

5月10日目黒ユネスコ協会赤松会長、日展参事横江嘉純氏、都議高橋清人氏など多数会員が参観された。

月例展示 5・6 月「私は貝になりたくない」内容一覧表

5, 6 月の特別展示は次に示す吸虫及びその第 1, 第 2 中間宿主の標本を展示しています。

* 印は本館に標本のないものですが, 分譲できましたらよろしく申し上げます。

吸 虫 名	第 1 中 間 宿 主	第 2 中 間 宿 主
<i>Schistosoma japonicum</i>	<i>Oncomelania nosophora</i> ミヤイリ ガイ <i>O. hupensis</i> <i>O. tangi</i> * <i>O. quadrasi</i> <i>Katayama formosana</i>	
<i>Schistosoma haematobium</i> *	<i>Bithynia truncata</i> など	
<i>Schistosoma mansoni</i> *	<i>Biomphalaria alexandrine</i> など	
<i>Gigantobilharzia sturnae</i> *	<i>Segmentina nitidella</i> ヒラマキモ ドキ	
<i>Clonorchis sinensis</i>	<i>Bithynia striatula</i> マメタニシ	モロコ, ヒガイ, タナゴなど
<i>Opisthorchis felineus</i> *	<i>Bithynia</i> spp.	淡水魚
<i>Metagonimus yokogawai</i>	<i>Semisulcospira libertina</i> カワニ ナその他近縁種	アユ, フナ, タナゴなど
<i>Metagonimus takahashii</i> *	<i>Semisulcospira libertina</i>	フナ, コイ, モツゴなど
<i>Heterophyes noceus</i> *	<i>Cerithidea cingulata</i> ヘナタリ	ボラ, メナダなど
<i>Dicrocoelium dendriticum</i>	<i>Helicella</i> *, <i>Zebrina</i> *, <i>Torguilla</i> *, <i>Cochlicella</i> * 属	アリ
<i>Eurytrema pancreaticum</i>	<i>Bradybaena similaris</i> オナジマイ マイ	不明
<i>Fasciola hepatica</i>	<i>Lymnaea ollula</i> ヒメモノアラガイ <i>L. truncatula</i> コシダカヒメモノア ラガイ その他	水辺の草に付着
<i>F. gigantica</i>	<i>L. ollula</i> など	水辺の草に付着
<i>Fasciolopsis buskii</i>	<i>Planorbis</i> spp.* <i>Segmentina</i> spp.	水辺の草に付着 (ヒシなど)
<i>Echinostoma revolutum</i>	<i>L. ollula</i> など <i>Planorbis</i> spp.*	同種又は他種の貝, オタマジャクシ など
<i>Echinostoma cinetorchis</i> *	<i>Segmentina mica</i> * ヒラマキモドキ など	オタマジャクシ, トノサマガエルな ど
<i>Paragonimus westermani</i>	<i>Semisulcospira libertina</i> <i>Tarebia graniifera obliquigranosa</i> イボアヤカワニナ <i>Melanoides tuberculatus</i> スノメ カワニナ	モクズガニ など
<i>P. ohirai</i>	<i>Assimineae parasitologica</i> ムシヤ ドリカワザンショウガイ	ベンケイガニ, アシハラガニなど
<i>P. kellicotti</i>	<i>Pomatiopsis lapidaria</i> タテマキガ イ	ザリガニ類
<i>Paramphistomum cervi</i>	<i>Gyraulius hiemantium</i> ヒラマキミ ズマイマイ	水辺の草に付着

目黒寄生虫館建設記録(2)

こうして館の敷地は完全に入手することができた。この土地には粗末な15坪のバラックが建っている。屋根だけは立派な瓦ぶきであつた。私はこれを売りとばして広々とした敷地にし、資金ができてから一挙に本建築にかかろうとおもっていたが、余り高価には売れないことがわかった。一方では、どんどん集まる標本が診療室からはみだしそうになってきたので、ともかくこのバラックを修理して仮の陳列室をつくることにした。

28年3月26日改築工事に着手し、5月12日には最後のフキツケを終った。一部屋の陳列室、その他に図書室、実験室、宿直室、別棟には便所と物置きをつくった。約20坪の葉草園もできた。

館の建築と並行して標本の収集もしなければならぬ。私の外来を訪れる患者からとれる数は知れたものである。どうしても大学などの研究室に助力をお願いするより他はない。

また家畜のものとなると方面違いであるから獣医さんに相談しようとおもった。井上征五郎氏はまず屠場に連絡をとって下さった。そして次第にその数は増加していったが、まとまって入手できたのは渡辺昇蔵氏のおかげであつた。当時、渡辺技官は柏崎の農林省家畜衛生試験場北陸支場におられたが、27年9月には、19種類の家畜寄生虫を送って下さった。

ひきつづき28年3月には、神奈川県松田保健所の藤村所長から井上技官を通じて多数の標本が送られてきた。そして総数は50点となった。

28年4月1日早朝、渡辺技官は改築中の館を訪ねられた。陳列についての注意やら、今後の方針などについて有益な助言をいただいた。さらに標本の分譲を約されたのである。

28年5月6日、館の完成を前に野々部君は急ぎ柏崎に出張した。彼は30種類の標本を得て意気揚々とひきあげてきた。これで総数84点となって開館に備えたのである。

28年5月12日、この日は待ちに待った改装落成の日であつた。早朝から家中中をあげて移転をはじめた。標本を運ぶ、陳列室の四面の壁にかけた棚にそれを並

べる、解説のカードを記入してはりつける。私が古道具屋で偶然発見した吉田貞雄博士の寄生虫図譜を壁にかける。実験室の道具を運ぶ、重いカードの整理箱を運送屋に運ばせる等とあわただしい一日であつた。

このようにして一応形体の整ったところに王洛博士を迎えたのであつた。かつて私が新京の厚生研究所の浅田順一博士のところにいた頃、お世話になった王博士が突然来訪されたのである。当時、博士は台北の市立衛生院長をしておられ、過日手紙をもって援助をお願いしておいたのであつたが、博士は真白に輝く新装になった館をみて大いに喜ばれ、台湾の資料の提供について固い約束をされたのであつた。その後空便をもって多くの資料を寄贈されたのである。

館の改装は終わったが、私はまだ一般に公開する勇氣がなかった。従つて表には看板を出すことができなかつた。まだまだこの内容では恥ずかしいとおもつたからである。(亀谷)

短 信

4月11日——学校福祉協会会長下山武士氏及び生徒30余名参観。

4月18日 貝の同定について予研寄生虫部訪問(木原)貝類学会談話会出席(木原)。

4月20日——中間宿主になるカエの標本の寄贈をうけるため小田原水産生物研究所訪問(木原)。

4月21日——千葉大医学部横川宗雄教授を訪問(町田)。

5月7日——NHK池田愛子氏来館。

5月13日——深海魚の寄生虫調査につき東大水産学科学末広恭雄教授を訪問(木原)。

5月16日——貝類学会談話会出席(木原)。

5月17日——大山桂博士来館、中間宿主貝類の学名変更その他について教示された。

5月22日——毎日新聞都南版に月例展示「私は貝になりたくない」が紹介された。

生物学同好会

4月23日(第6回)5月30日(第7回)下目黒小学校で福井玉夫博士が動物分類学「絨形動物、線形動物、輪形動物、環形動物」の講義をされた。(野々部)